

一般財団法人 研究学園都市コミュニティケーブルサービス
第40回 放送番組審議会 議事録

- 1 日 時 令和2年2月27日(木) 10時30分～12時00分
- 2 場 所 オークラフロンティアホテルつくば アネックス2F夕映の間
- 3 出席者 中山伸一会長、生田目美紀委員、馬場清康委員、鷺田美加委員、石塚敏之委員、勝村英樹委員
A C C S
高田理事長、石川副理事長、小山理事、小平理事、渡辺放送部長、小野放送担当次長、小形放送第1課長

4 議案の審議経過等

- (1) 会議に先立ち、定足数の確認を行ったところ、出席委員は6名であり、委員総数7名の過半数を超えていることから、放送番組審議会規定第4条1項の規定により、本審議会は有効に成立していることを確認した。
- (2) 議事に入る前に、高田理事長から挨拶があった。その中で、A C C Sを取り巻く状況と今後について、①4K放送②インターネット配信番組③コミュニティチャンネルの3点を挙げて説明した。
- (3) 中山会長の進行で議事に移り、まず昨年開催した第39回放送番組審議会の議事録の内容を確認した(議事1)。続いて、令和元年度に制作・放送した中から2番組のVTR(20分)を上映し、「A C C Sコミュニティチャンネル放送について」の意見交換を行った(議事2)。その後、「多チャンネル放送番組等について」を意見交換した(議事3)。

5 意見交換

(1) A C C Sコミュニティチャンネル放送について(議事2)

勝村委員

つくば市広報戦略課では、市民目線の広報を充実させたいと考えている。こちらから決まった情報を流すのではなく市民が知りたい情報を提供するようにしたいので、今後も「つくば市広報タイム」「市長が語る」の2番組で協力を願いたい。

石塚委員

日頃は見る機会が中々ないので(事前に送付された)DVDを何度も見たが、昨年と変

わったと思った。いわゆるACC Sらしさが見えた。(番組内容は)好奇心を刺激するテーマを選んでる。例えば、国体の会場にはなかなか行けないが、茨城国体の番組では競技施設がどのように使われているかが分かる。地域の人々の表情が見られるのも良かった。今年、筑波大学が箱根駅伝に出場したが、「つくば発 熱中スポーツ」では、地域の人に支えられている彼らがいた。アスリートが身近にいることが分かるので、子供たちにも良い影響がある。「市長が語る」は、リサイクルセンターなどの現場で撮影したのが良い。話題になった現地の情報を市民の皆さんに届けるという、ACC Sらしさがあった。ジャズピアニスト根木マリサさんの番組は楽しかった。今後も見たい。「CHALLENGE IBARAKI」は「G20」がテーマで、普段見られない場所を映像として届けていただけて良かった。

鷺田委員

「市長が語る」は、ラフな雰囲気ですいつもの市長の感じが出ている。つくばには小学生の時から住んでいるが、つくばを知っているようで知らないということ、ACC Sの番組を通して分かる。「つくば発 熱中スポーツ」では、表に出ない選手の様子が見られるのが良かった。学生さんがどういうことをしているか知らなかったのも、選手たちの裏の顔をこれからも取り上げてほしい。一方、ACC Sの話題をすると、市民からエリア外だと言われることがある。例えば、ある旅館のことを話題にしてほしいと思っても、そこはACC Sのケーブルが繋がってないから見られない。ケーブルがなくても繋がる仕組みがあると良い。その一つがTwitterだが、ACC SのTwitterはフォーマルなので、もっとくだけた感じにするとファンが増えるだろう。

馬場委員

「市長が語る」の現場での収録は分かりやすく良い。(事前に送付された)DVDにあったリサイクルセンターは自宅の近くにあるが、あのような施設とは知らなかった。また小野記者とのやりとりがあって分かりやすい。ただし、市長の記者会見では記者さんの声が入らないので、工夫して、市役所に協力して音声を入れてもらうか、テロップを入れるともっと分かりやすい。ところで、最近、テレビ局の持ち込み番組のトラブルが問題になっていた。ACC Sではトラブルないのか？

小野

今のところトラブルはない。あった場合は内部で協議する。

馬場委員

番組を受ける側が、判断しないとトラブルになるのではないかと。

中山会長

規則は制定されているので、番組を作る側はその規則に則ってやれば良いと思う。

生田目委員

「ウィークリーACC S」の取材を受けたが、取材を受ける立場の喜びを感じた。幼稚園の子が取材を受けて喜ぶだろうなと思った。地域に密着するとは、取材を通して地域との信頼関係を構築することで、それがACC Sの価値だろう。私は「チラシズム」が好きだ。企画が良くて、今の情報を教えてくれるのが素晴らしい。チラシはデザインされてきれいだし、コメンテーターのキャラクターも良い。「ACC Sアーカイブ」も好きで、あれを見るとACC Sのカメラワークと編集は、上手になったと感じた。番組は素材とテーマがあれば良いわけではなくカメラワークや編集も大事。そういう切り口でもアーカイブはおもしろい。これからも市民の近くで番組を作ってほしい。

中山会長

今、カメラワークという話があったが、コンテンツそのものが良くなっている。引き続き高めてほしい。特に、いただいたDVDで良いのはジャズの番組。出演者とACC Sの間でコミュニケーションが取れており、制作が洗練されている。テロップの位置は通常下に表示させるが、右に表示させることで分かりやすくなっている。番組全体の構成もステップを踏んでいて分かりやすい。出演者側ががんばっているのもあるが、ACC Sもがんばっていると感じた。あの番組は音楽を学ばせるものだが、もう一つ意味があるのは、ああいう人がつくばにいるということアーカイブとして残していることだ。ACC Sの意義は、つくばのアーカイブを残すことなので、そういう視点で作ってほしい。バランスをうまく保ちながら継続してほしい。

馬場委員

昨年放送された「ACC Sアーカイブ」の学園都市の今昔はよかった。ACC Sしかないデータだ。

中山会長

YouTube をオンデマンドで発信するのもアーカイブ的なものにとっては良いアプローチになる。

中山会長

仮にACC Sがなくなっても、コンテンツ制作会社になって生き残っていけるかもしれない。

(2) 多チャンネル放送番組等について (議事3)

勝村委員

4Kは、何に力を入れれば普及するのか? どうやっていくのか?

高田理事長

オールジャパンでの普及とACCSSの普及とあるが、オールジャパンの面ではコンテンツが弱い。まだ、4Kを実際に見ている人が少ない。オリンピックへの期待はあるが、民放が独自コンテンツを作ってほしい。ACCSSとしては、STBの価格が高いのがネックだ。しかし、秋から安いSTBが出るのでそれから営業に力を入れたい。コミュニティチャンネルについては、4Kで流すところまでいってない。

渡辺部長

4Kは大画面になって一つ一つが大きく映る。スポーツ番組では、もっと視野を広げ広角で移し、試合全体を映すような番組をやってほしいと思う。そうになると、4Kだと大きく見られるとなり、テレビを買い替えるのでは？

中山会長

STBは多チャンネルがメインなので4Kは難しいのでは？

高田理事長

J：COMでは、新規加入者はすべて4KSTBにしている。うちはそこまでとは思ってないが、いろんな方法で普及させたい。

石塚委員

私はテレビを見る暇もない。ACCSSのメリットのうち、多チャンネルは付加価値と思うが、多チャンネルの位置付けは？

高田理事長

お年寄り向けや子供向けの番組がいくつかある。幅広い年齢層に応じた幾つかの視聴手段があるが、動画配信「Netflix」などがどんどん出てネットでテレビを見る人が増えているので、どう対抗するかだ。J：COMは、STBでNetflixが見られるようにしている。動画配信会社と連携する時期が来ていると個人的に思っている。

中山会長

専門番組の調達はACCSSサービスの一環だ。自主制作番組では不十分なので多チャンネルを提供しているのだと思うが。

高田理事長

ドキュメンタリーやカルチャーなど、映画・ドラマ・スポーツではないところで多チャンネルはがんばってもらわなければならないと個人的には思っている。

中山会長

時間がたっぷりある人は良いが時間がない人は好きなときに見たいので、ネット配信に流れる。

高田理事長

お年寄りにはケーブルテレビがいいが、若い人を取り込むのが難しい。

鷺田委員

以前はリビングで子ども番組を多チャンネルで見ていたが、今、子供が Netflix 世代なので、リビングのテレビでは ACCS を見ない。Netflix の恋愛ドキュメンタリー番組の出演者自身の Twitter や Instagram をフォローしながら、リアルタイムで恋愛事情の変化を追いかけて見ている。また、Netflix では日本語音声の番組でも英語の字幕を出せるが、その英語の字幕を見ながら英文法の勉強をしている。英語の番組を日本語の字幕で見ても、日本語の字幕ばかりを見てしまうので英語の勉強にはならない。逆に日本語音声の番組を英語の字幕で見るほうが、英語の勉強になる。コミュニティチャンネルでも産総研などの力を借りて AI 的に翻訳字幕が出るようになれば良い。

馬場委員

多チャンネルは使いこなせない。録画して見ているが 4K だとメリットはないのでは？ Netflix なら好きなときに見られるので録画の手間もいらぬ。多チャンネルの魅力を発信する必要がある。

生田目委員

多チャンネルは環境音的に使っている。何か作業をしながら流していて重宝しているが、他の人は Netflix でドラマを好きな時に見ている。私としては ACCS が合っている。ネット配信の利用の一つの例だが、女性がネイルサロンにいくと時間がかかる。今まではお姉さんとしゃべり続けるしかなかったが、最近はタブレット端末で Netflix を見せてお互いに黙っている。メディアの使い方は変わってきている。ドラマや映画やスポーツなど集中してみるのにはネットにして、多チャンネルを環境系にするのは良いと思った。

馬場委員

朝の NHK ニュース番組を時計がわりにしているが、毎日ではないが、時々、画面と音声微妙にずれるときがある。

渡辺部長

デジタル化で、音声はデジタル化の変調をかけるが、変調のタイミング回数が映像と音声がずれる。音声の方が変調の回数が多いのでずれる。瞬間的なものなのでそのまま流している。

中山会長

ACC Sの作る新しい番組については好評と思う。ネットのなかった時代から、今は電車でスマホを見る時代。時代が変わった中で多チャンネルではどういう視聴の仕方をしているか、調べるのも良い手段ではないか。